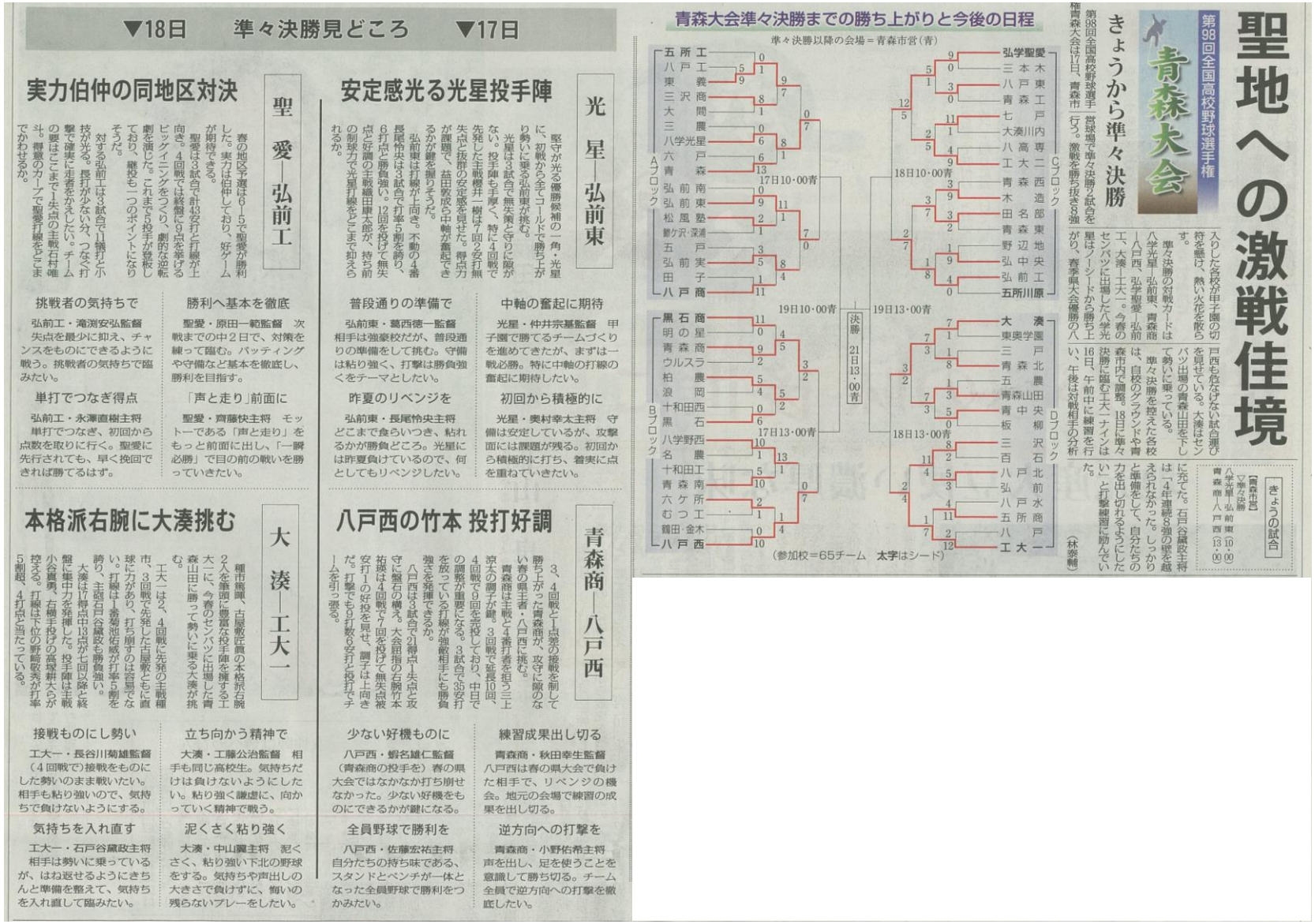
２０１６年（平成２８年）７月１７日　日曜日

デーリー東北新聞　１２面　掲載



聖地への激戦佳境

第98回全国高校野球選手権青森大会

きょうから準々決勝

第98回全国高校野球選手権青森大会は17日、青森市の（行う。激戦を勝ち抜き8強入りした各校が甲子園の切符を懸け、熱い火花を散らす。

準々決勝の対戦カードは八学光星―弘前東、青森商―八戸西、弘学聖愛―弘前工、大湊―工大一。今春の決勝に臨む工大一ナインは16日、午前中に練習を行い、午後は対戦相手の分析に充てた。石戸谷黛政主将は「4年連続8強の壁を越えられなかった。しっかりと準備をして、自分たちの力を出し切れるようにしたい」と打撃練習に励んでいた。（林崇輔）

きょうの試合

【青森市営】
▽準々決勝
八学光星―弘前東　10・00
青森商―八戸西　13・00

青森大会準々決勝までの勝ち上がりと今後の日程

準々決勝以降の会場＝青森市営（青）

（参加校＝65チーム　太字はシード）

▼18日　準々決勝見どころ　▼17日

聖愛―弘前工

実力伯仲の同地区対決

春の地区予選は6―5で聖愛が勝利した。実力は伯仲しており、好ゲームが期待できる。

聖愛は3試合で計43安打と打線が上向き。4回戦では終盤に9点を挙げるビッグイニングをつくり、劇的な逆転劇を演じた。これまでも投手が登板しており、継投も一つのポイントになりそうだ。

対する弘前工は3試合で11犠打と小技が光る。長打が少ない分、つなぐ打撃で確実に走者をかえしたい。チームの要はここまで1失点の主戦石村唯斗。得意のカーブで聖愛打線をどこまでかわせるか。

挑戦者の気持ちで

弘前工・滝渕安弘監督
失点を最少に抑え、チャンスをものにできるように戦う。挑戦者の気持ちで臨みたい。

単打でつなぎ得点

弘前工・永澤直樹主将
単打でつなぎ、初回から点数を取りに行く。聖愛に先行されても、早く挽回できれば勝てるはず。

勝利へ基本を徹底

聖愛・原田一範監督　次戦までの中2日で、対策を練って臨む。バッティングや守備など基本を徹底し、勝利を目指す。

「声と走り」前面に

聖愛・齊藤快主将　モットーである「声と走り」をもっと前面に出し、「一瞬必勝」で目の前の戦いを勝っていきたい。

光星―弘前東

安定感光る光星投手陣

堅守が光る優勝候補の一角・光星に、初戦から全てコールドで勝ち上がり勢いに乗る弘前東が挑む。

光星は3試合で無失策と守りに隙がない。投手陣も手厚く、特に4回戦で先発した主戦櫻井一樹は7回2安打無失点と抜群の安定感を見せた。得点力が課題で、益田敦成ら中軸が奮起できるかが鍵を握りそうだ。

弘前東は打線が上向き。不動の4番長尾怜央は3試合で打率5割を誇り、6打点と勝負強い。12回を投げて無失点と好調の主戦織田康太郎が、持ち前の制球力で光星打線をどこまで抑えられるか。

普段通りの準備で

弘前東・葛西徳一監督
相手は強豪校だが、普段通りの準備をして挑む。守備は粘り強く、打撃は勝負強くをテーマとしたい。

昨夏のリベンジを

弘前東・長尾怜央主将
どこまで食らいつき、粘れるかが勝負どころ。光星には昨夏負けているので、何としてもリベンジしたい。

中軸の奮起に期待

光星・仲井宗基監督　甲子園で勝てるチームづくりを進めてきたが、まずは一戦必勝。特に中軸の打線の奮起に期待したい。

初回から積極的に

光星・奥村幸太主将　守備は安定しているが、攻撃面には課題が残る。初回から積極的に打ち、着実に点を重ねていきたい。

大湊―工大一

本格派右腕に大湊挑む

種市篤暉、古屋敷匠真の本格派右腕2人を筆頭に、豊富な投手陣を擁する工大一に、今春のセンバツに出場した青森山田に勝って勢いに乗る大湊が挑む。

工大一は2、4回戦に先発の主戦種市、3回戦で先発した古屋敷ともに直球に力があり、打ち崩すのは容易でない。打線は1番菊池佑威が打率5割を誇り、主砲白戸谷黛政も勝負強い。

大湊は17得点中13点が七回以降と終盤に集中力を発揮した。投手陣は主戦小谷真勇、右横手投げの高塚耕大らが控える。打線は下位の野鮒敬秀が打率5割超、4打点と当たっている。

接戦ものにし勢い

工大一・長谷川菊雄監督
（4回戦で）接戦をものにした勢いのまま戦いたい。相手も粘り強いので、気持ちで負けないようにする。

気持ちを入れ直す

工大一・石戸谷黛政主将
相手は勢いに乗っているが、はね返せるようにきちんと準備を整えて、気持ちを入れ直して臨みたい。

立ち向かう精神で

大湊・工藤公治監督　相手も同じ高校生。気持ちだけは負けないようにしたい。粘り強く離塁に、向かっていく精神で戦う。

泥くさく粘り強く

大湊・中山翼主将　泥くさく、粘り強い下北の野球をする。気持ちや声出しの大きさで負けずに、悔いの残らないプレーをしたい。

青森商―八戸西

八戸西の竹本 投打好調

3、4回戦と1点差の接戦を制して勝ち上がった青森商が、攻守に隙のない春の県王者・八戸西に挑む。

青森商は主戦と4番打者を担う三上涼太の調子が鍵。3回戦で延長10回、4回戦で9回を完投しており、中日での調整が重要になる。3試合で35安打を放っている打線が強敵相手にも勝負強さを発揮できるか。

八戸西は3試合で21得点1失点と攻守に盤石の構え。大会屈指の右腕竹本祐瑛は4回戦で7回を投げて無失点被安打1の好投を見せ、調子は上向きだ。打撃でも9打数6安打と投打でチームを引っ張る。

少ない好機ものに

八戸西・蝦名雄仁監督
（青森商の投手を）春の県大会ではなかなか打ち崩せなかった。少ない好機をものにできるかが鍵になる。

全員野球で勝利を

八戸西・佐藤宏祐主将
自分たちの持ち味である、スタンドとベンチが一体となった全員野球で勝利をつかみたい。

練習成果出し切る

青森商・秋田幸生監督
八戸西は春の県大会で負けた相手で、リベンジの機会。地元の会場で練習の成果を出し切る。

逆方向への打撃を

青森商・小野佑希主将
声を出し、足を使うことを意識して勝ち切る。チーム全員で逆方向への打撃を徹底したい。

デーリー東北新聞社提供